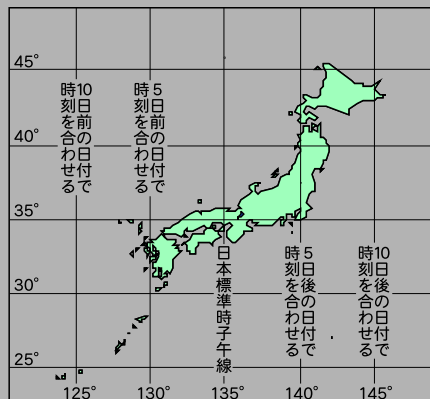


<http://www.hoshinavi.com/>

星ナビ

●オリジナル 星座早見盤●



四季の星座を楽しもう

春の星空 ～春の大曲線を見つけよう～ ☆3月15日0時ころ 4月15日22時ころ 5月15日20時ころ

春の星座探しの出発点は、北の空高くのぼった7個の星が形作るひしゃくの姿「北斗七星」です。ひしゃくの柄のつらなりを、そのままのばすと、二つの明るい星に出会います。はじめの黄色味をおびた星は、うしかい座のアルクトゥルス、二つ目の真っ白に輝く星は、おとめ座のスピカで、ともに春を代表する1等星です。北斗七星からつらなるこの大きな曲線を「春の大曲線」といいます。また、この曲線の円弧の中心付近に輝く1等星は、しし座のレグルスです。なお、かみのけ座、おとめ座あたりにはたくさんの銀河が密集していますが、天体望遠鏡でないと見えません。

夏の星空 ～夏の大三角形を見つけよう～ ☆6月15日0時ころ 7月15日22時ころ 8月15日20時ころ

夏の夜空の一番の見ものは、南の地平線から立ちのぼるひときわ明るい天の川の流れです。さそりの尾からはくちょうを抜けて、カシオペアにたどり着くころには、ずいぶんと淡くなりますが、それがかえって座付近の明るさを強調しとても見事なながめです。頭の真上ちかくの天の川の両岸に輝いている2つの1等星は、七夕物語で有名な織姫（ベガ）と彦星（アルタイル）です。この2つの星と、はくちょう座の1等星デネブとで作る「夏の大三角形」は、星座探しの出発点としては、とてもわかりやすい星のらびです。夏は、1年中で最も流星が多い時期なので、星座探しの間にいくつもの流星を見ることができでしょう。

秋の星空 ～秋の四辺形を見つけよう～ ☆9月15日0時ころ 10月15日22時ころ 11月15日20時ころ

1年のうちでもっともさびしい秋の星空には、1等星が一つしかありません。みなみのうお座のフォーマルハウトで、南の空にポツンと輝く姿は、いかにもさびしげで、それがとても印象的ですが、周囲に明るい星がないので星座探しの目印には使えません。そこで使われるのが、頭の真上あたりに見える「秋の四辺形」です。この四角形は2等星でできていますが、その中には明るい星がないのでよく目立ちます。4個の星を結んだ各辺をそれぞれの方向にのばしてみると、秋の星座を次々に探し出すことができます。また、四辺形のすぐ東にはアンドロメダ大銀河があり、肉眼でもボーッとした姿を確認できるでしょう。

冬の星空 ～冬の大三角形を見つけよう～ ☆12月15日0時ころ 1月15日22時ころ 2月15日20時ころ

1年のうちで最も華やかなのが冬の星空です。全天一の明るさを誇るおおいぬ座のシリウスを筆頭に、南の地平線にわずかに顔をのぞかせるりゅうこつ座のカノープスまで、8個もの1等星が澄みきった夜空に輝いています。淡い冬の天の川をはさみ込むように並んだ「冬の大三角形」が、冬の星座探しの出発点となりますが、ぎょしゃ座の五角形、オリオン座の三つ星、ふたご座のカストル、ポルックス兄弟など、目立つ星の並びが豊富ですから、星座探しは簡単です。また、オリオン座の三つ星の南にあるオリオン大星雲は肉眼でも見えますので、星座探しのついでに見ておきましょう。

アストロアーツ 星ナビ編集部